

# 令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立羽島北高等学校 学校番号 6

## I 自己評価

1 学校教育目標	「知・徳・体」の調和のとれた生徒の育成を図る。 (1) 興味・関心を高める授業を進め、確かな学力を育成する。 (2) 自らの進路を切り拓く力を育成する。 (3) 「命」を大切にする心、人への思いやりの心を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇学校経営	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育方針・指導内容について概ね理解が得られている。</li> <li>・個に応じた学習指導や、生徒が自らの可能性の伸長を実感できる取り組みを提供する必要がある。</li> <li>・地域と連携した教育活動を推進する必要がある。</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善を推進する。</li> <li>・地域課題探究学習と地域貢献活動を推進する。</li> <li>・教職員の働き方について見直しを進める。</li> <li>・校内で情報共有の進む体制を作り、外部への発信にも努める。</li> </ul>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	企画運営委員会、各種アンケートの実施 管理職による各分掌長や主任、個々の教員への聴き取り調査	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) ICTの活用などによる、個に応じた指導方法の開発  (2) 地域課題探究型学習の展開 (3) 地域貢献活動の展開 (4) 職員の時間外労働時間の縮減	(1) 授業に対する生徒の評価 授業評価アンケートや生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果 (2) 生徒の主体的な取組状況 (3) 生徒の主体的な参加状況 (4) 出退勤簿の記録・年休取得状況	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
①授業改善に全校体制で取り組む。 授業でのICT機器の活用や、アクティブラーニング、課題発見解決型学習の導入。 ②地域課題探究型学習を、外部機関の協力を得ながら推進する。 ③地域貢献ボランティアを「ゆいまーるプロジェクト」として総括し、活動を推進する。 ④時間外勤務の縮減の仕組みを作り、年休取得推進の呼びかけを行う。	①授業の質を上げる効果的方法の共有化が実施できたか。 生徒の授業への満足度が向上したか。 ②生徒が積極的に参加したか。 ③生徒が積極的に参加したか。 ④職員の時間外勤務が減少したか。年5日以上年休が取得されたか。	A (B) C D  (A) B C D (A) B C D A (B) C D
11 成果・課題	○授業改善への取り組みは、ICT機器の設置や県のICTを活用した公開授業に授業者・参観者として積極的に参加したことで、改善を進めることができた。アクティブラーニングも多くの授業で展開された。個を伸ばす授業、個々の可能性の伸長を実感できる授業への改善は今後の課題である。 ○今年度からスタートした「地域課題探究型学習」は外部機関の協力もあって職員研修が効果的に行われ、これまでの授業とは全く違う取組を展開したが、生徒の取組は予想以上であった。 ○「ゆいまーるプロジェクト」は参加者が昨年度より大きく上回った。また、地域との連携により活動の幅が広がった。 ○時間外勤務は昨年より微減し、短時間非常勤講師を除く全職員が年5日相当以上の年休を取得した。	
12 来年度に向けての改善方策案	① 授業改善については、生徒が自らの課題を発見し解決するというスタイルを導入する。 ② 「地域課題探究型学習」と「ゆいまーるプロジェクト」を羽島北高の『ふるさと教育』の柱として地域機関との連携、地域の教育力の活用を推進する。 ③ 教員の心と体の健康を守るための仕組みを整備する。	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年2月6日

地域課題探究型学習など、リーダーの資質を養う優れた取組が展開されている。外部の理解を得るために、ホームページなどを活用して情報発信していくとよい。  
働き方改革や多様な生徒への柔軟な対応を進めてほしい。

2 評価する領域・分野	◇教務	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>学習指導に関する生徒の評価は、昨年度は一昨年度と比較した場合すべての項目において肯定的評価が上昇したのに対し、今年度はすべての項目で下降に転じた。その中でも、一人一人の能力に応じた指導の在り方（-3.9%）や、総合学習の時間の内容（-6.3%）に課題を残す結果となった。一人一人の能力に応じた指導についてはアンケートを実施した7月以降に各教室にICT環境が整備されたこともあり、課題探究的な授業内容やグループ学習・ペア学習などを積極的に取り入れ個々の能力を引き出せる授業形態を推進していきたいと考える。また、総合的な探究の時間については、すでに今年度後期から、生徒が協働して課題に取り組む探究活動が本格的に始まったことから、個々の教員が共通認識をもって指導にあたり、生徒の主体的になって問題解決に取り組む能力を育てていきたい。</p>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単位制の学校設定科目をはじめとして生徒が興味・関心を持って学習に主体的に取り組む授業について研究する。</li> <li>・ICT機器の活用を中心としたアクティブラーニングを実践する。</li> <li>・習熟度別・少人数授業に対する生徒の肯定的評価を一層高める。</li> <li>・生徒個々に応じた課題の提示と家庭学習時間の増加を図る。</li> </ul>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程委員会、LHR・総合学習委員会</li> <li>・学習指導委員会</li> </ul>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>(1) 教育課程委員会をはじめ各教科会を定期的 に開催し、研究と協議を行う。</p> <p>(2) 授業力の向上を目指すとともに、習熟度別・ 少人数授業の効果的な運用方法や指導方法の研 究に努める。</p> <p>(3) 生徒の家庭学習時間調査を実施し結果の分 析をもとに、家庭学習時間を増加させるための 研究と実践を進める。</p>	<p>(1) 単位制に向けた生徒にとって魅力ある教育課 程の編成ができたか。</p> <p>(2) ICT機器等を利用した研究授業(各教科とも年1回)、公 開授業週間(年1回)、授業アンケート(年1回実施、生徒による授業 評価)を通じて、アクティブラーニングを意識した授 業改善を図ることができたか。</p> <p>(3) 家庭での学習に意欲的に取り組むことができ たか。</p>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<p>①教育課程委員会や各教科会では、単位制に向 けた教育課程のための研究と協議を行った。</p> <p>②ICTを利用した授業研究や公開授業を通して生 徒の主体的な活動を重視する授業が増えた。</p> <p>③生徒による授業アンケートの結果を踏まえなが ら、授業改善の研究を進めた。</p> <p>④家庭学習時間調査の実施。</p>	<p>①単位制に向けた特色ある教育 課程を編成できたか</p> <p>②ICT機器等を利用した研究授業 ・公開授業・各授業のアンケ ート結果等を踏まえた授業改 善はできたか</p> <p>③全体として家庭学習時間を平 日平均90分以上確保できたか 。</p>	<p>(A) B C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A B (C) D</p>
11 成果 ・ 課題	<p>○教育課程委員会では、令和2年度および3年度かの単位制のカリキュラムについて検討し、魅力ある単位制普通科高校として本格的に始動できるように検討を重ねた。特に実務面においては、高大連携授業の具体的な進め方や時間割のシュミレーションや使用教室の割り当てなどを行った。また、教科会では、単位制の学校設定科目の授業の具体的な内容や進め方について検討した。</p> <p>○ICT機器を利用した研究授業や教科の枠を超えた授業参観、教科会等を通じて授業の改善に取り組んだ。</p> <p>▲各教が中心となって、生徒の実態に即した授業における課題の設定をおこなうとともに及び生徒が主体的に授業に取り組むような授業のあり方についてさらに研究を進める。</p> <p>▲家庭学習時間については、平日90分以上の学習時間についての評価合が、1年生がC、2年がDであった。（平日の学習時間90分以上の割合 A：60%以上、B：50%以上 C：30%以上）家庭学習が減少する一因として推薦入試の受験者増加が考えられるが、学力をしっかりと身に付けさせるためにもキャリア教育等を通じて学習に対するモチベーションを高め、家庭学習に主体的に取り組ませる必要がある。</p>	
		<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>

## 12 来年度に向けての改善方策案

- ・各教科を中心にICT機器を利用したアクティブラーニングを積極的に推進していく必要がある。そのために、研究授業や公開授業を効果的に実施するとともに、他校での授業を視察するなどしてアクティブラーニングに関する研修会等を積極的に実施する。
- ・総合的な探究の時間においては、進路学習と課題探究学習の2つを大きな柱とし、進路実現に向けたキャリア学習や地域課題への取り組みや外部講師による講演会、国際理解など幅広いテーマについても生徒が主体となって深い学びが可能となるような指導計画を策定する。
- ・家庭学習については、教科が中心になって、生徒の学力状況に応じた課題を提示し、生徒それぞれが進路実現できるように適切なアドバイスを行い習慣化するようにする。

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年2月6日

### 【意見・要望・評価等】

- ・高校2年生から新大学入試制度が始まり出題形式も変わる。新しいテストでは、吸収型の知識だけではない探究型の学びがより一層求められる。探究型の学びは、推薦・AO入試が多くなってきている中で、進路実現にもつながっていくものと考ええる。
- ・総合的な学習の時間における課題探究活動では、地域と学校とを結びつける役割を積極的に果たしていきたい。この地域には人々の生活に関する課題など取り組むべきテーマは数多くある。これらのテーマに生徒が主体となって取り組むことにより地域や羽島北高校が活性化していくものと考ええる。
- ・高校においては、このエリアにはどんな課題があるのかを把握する必要がある。そのためには、まず教員がこの地域にどんな課題があるか研修をする必要がある。例えば、人口の増減や外国人研修生の人数、高齢化率などをテーマに取り上げることができる。効果的な研修の方法の一つとして、ブレインストーミングが挙げられる。

2 評価する領域・分野	◇進路指導	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の進路指導、進路情報の提供について概ね満足されている。引き続き、適切な進路指導や質の高い指導を研究・推進していく。</li> <li>・総合的な学習の時間を活用したキャリア教育の充実と推進に努める。</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育を段階的に進め、社会で自己を生かすための主体的な努力ができる人材を育てる。</li> <li>・卒業時に進路目標が実現できるよう学力の定着と伸長を目指す。</li> </ul>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習委員会 ・教育課程委員会 ・進路指導部会</li> <li>・3年学年会 ・研究推進部会</li> </ul>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)キャリア教育の計画及び実践（総合的な学習・探究の時間を中心に展開）</li> <li>(2)学力の定着（補習、外部模試、通信衛星講座）</li> <li>(3)進路情報の提供（進路便り、各種ガイダンス）</li> <li>(4)進路相談の充実と支援体制の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)生徒一人一人の将来を見据えた進路指導の充実と生徒の満足度の向上。</li> <li>(2)学力の向上と進路目標の実現。</li> <li>(3)時期や内容を考慮した効果的な進路便りの配布と各種ガイダンスの実施。</li> <li>(4)進路指導に対する肯定的評価の向上。</li> </ul>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次生は、単位制の趣旨を踏まえ、職業及びフィールド選択研究、2年生は学部学科等の研究、3年生は入試対策など進路目標の実現のための方策を中心に実施する。</li> <li>・補習、外部模試や通信衛星講座等を利用した学力向上に努める。</li> <li>・定期的に進路便りを発行し、また、各種ガイダンスを充実させて、進路学習に資する。</li> <li>・学年会との連携を密にし、生徒情報の共有と外部情報の適切な提供に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①進路学習が有効に行われ、進路目標が実現できたか。</li> <li>②学力の向上に役立ったか。</li> <li>③進路選択に資することができたか。</li> <li>④適切に進路指導を行うことができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Ⓐ B C D</li> <li>A Ⓑ C D</li> <li>A Ⓑ C D</li> <li>Ⓐ B C D</li> </ul>
11 成果課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今年度の夏期に実施された自校評価アンケートによると、進路指導の満足度は生徒・保護者とも肯定的評価が70%程度と概ね評価された。</li> <li>○3年生のAO・推薦入試の受験希望者の増加により、推薦入試の校内ルールを見直し、より実態に即した進学指導ができた。</li> <li>○1年生の進学フェスタ、2年生の大学模擬授業や学部学科に関する進路講演会やインターンシップ、3年生の進学講演会や各種ガイダンスなど、それぞれの学年のニーズに合致したキャリア教育の方法を展開することができた。</li> <li>○3年学年会との連携を十分に行い、詳細な打ち合わせを重ねることによって複雑な入試制度に対応することができた。</li> <li>▲「英語民間検定」の活用や「新テスト」の記述式問題の導入は延期・見直しされたが、今後の大学入試改革について、正確な情報を収集し、職員や生徒に伝えていく必要がある。</li> </ul>	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国の大学入試改革の動向及び本校におけるAO・推薦入試希望者の増加に対応するため、引き続き入試制度の周知徹底や面接・小論文対策の充実を図っていく。</li> <li>・単位制の進行に伴い、2年次生の外部模試について、一部、希望受験制とする。</li> </ul>	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年2月6日

【意見・要望・評価等】保護者や生徒のアンケート結果を踏まえて、改善を進めてほしい。

2 評価する領域・分野	◇生徒指導・教育相談	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>・マナー指導については、生徒・保護者とも肯定的評価が多い。一方で服装頭髪指導については、生徒は肯定的評価が多いものの、保護者は「わからない」が増加しており、原因を究明する必要がある。</p> <p>*マナー指導：生徒86.6%、保護者83.6% *服装頭髪指導：生徒77.3%、保護者55.6%</p> <p>*服装頭髪指導：「わからない」保護者7.3%→32.7%</p> <p>・いじめの指導については、肯定的評価が多いものの実際に特別指導に該当した事案もあり、今後の課題である。また、いじめ・差別については「わからない」が少ないものの引き続き一定数あり、いじめ・差別を絶対に許さないという姿勢をより一層しっかりと示す必要がある。</p> <p>*いじめの指導「肯定的」：生徒69.5% 生徒「わからない」12.9%→15.4%</p> <p>いじめの指導「肯定的」：保護者70.5% 保護者「わからない」35.2%→15.0%</p>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>◇朝の登校指導（挨拶・身だしなみ・交通安全）の継続的实施（MSリーダーズによる活動も含む）</p> <p>◇教育相談・学年会・保健室と連携した学校不適応生徒への支援</p> <p>◇いじめの未然防止</p> <p>◇時代にあった生徒心得（校則）への見直し</p> <p>◇LGBT生徒への受け入れ態勢の構築と支援</p>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・クラス担任・学年会・生徒指導・教育相談の緊密な連携・	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 朝の校門・昇降口での挨拶・身だしなみ・交通安全指導（含MSリーダーズ） (2) 教育相談・学年会・保健室・HR担任との緊密な連携と支援計画づくり (3) いじめ未然防止のためのLHR実施 (4) 生徒心得（校則）のあり方研究 (5) LGBTに関する職員研修会の実施	<p>(1) 昨年度までの統計比較</p> <p>〔問題行動・遅刻・交通事故・身だしなみ指導の減少率〕</p> <p>20%以上：A 0%以上：B -10%以上：C -10%未満：D</p> <p>(2) 全校体制による教育相談活動の充実</p> <p>〔いじめ対策や人権についての生徒・保護者の指標〕</p> <p>60%以上：A 50%以上：B 40%以上：C 30%未満：D</p>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>遅刻指導・挨拶指導・マナー指導</li> <li>交通安全委員会による交通安全活動</li> <li>生活委員会による挨拶運動と新聞による啓発</li> <li>学校不適応生徒への支援</li> <li>いじめ迷惑調査の結果分析およびいじめ未然防止のためのLHRの実施</li> <li>LGBT生徒への支援</li> </ul>	<p>①問題行動が減少したか。</p> <p>②交通事故件数が減少したか。</p> <p>③1日当たりの平均遅刻人数は減少したか。</p> <p>④いじめ問題や人権に対する指導は効果的であったか。</p>	<p>A (B) C D</p> <p>A B (C) D</p> <p>(A) B C D</p> <p>A (B) C D</p>
11 成果課題	<p>○毎朝校門・昇降口での遅刻指導やあいさつ運動、クラスでの呼びかけの結果、遅刻を昨年度より大幅に減少させることができた。12月末1日平均6.7人→4.4人</p> <p>○いじめ未然防止のためのLHRを実施したことにより、生徒の意識を高めることができた。</p> <p>▲情報モラル違反事案が多く発生しており、今後一層の取組が課題である。</p>	
12 来年度に向けての改善方策案	<p>・全県的にMSリーダーズの活動が活発になるに従い、さまざまな問題が減少したことを踏まえ、本校でも問題行動の減少、いじめの撲滅、情報モラルの向上等を図るため、生徒（MSリーダーズ等）が主体となった啓発活動を増やしていく。また、時代にあった生徒心得（校則）への見直しを積極的に行うとともに、制服のユニバーサルデザイン化の研究などLGBT生徒への支援についてもより具体的に研究を進める。</p>	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年2月6日

【意見・要望・評価等】
<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート結果を見ると否定的な意見が20%を超えるものが問題点であると考えられるので検討すると良いとの意見をいただいた。</li> <li>HKTゆいまーるプロジェクトへの評価が高いため、今後は特活部とより一層連携して活動を活発にし、自己肯定感を高められるようにしていきたい。</li> </ul>

2 評価する領域・分野	◇特別活動	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の学校行事に対しては、生徒（74.6%）、保護者（69.7%）がよい評価をしている。生徒評価は前年度よりは約12%高くなった。</li> <li>・本校の部活動に対しては、生徒（62.7%）、保護者（67.2%）とよい評価を受けているが、前年度より低い値である。</li> <li>・本校のボランティア活動に対する評価は、高く評価する割合が、生徒はほぼ前年度並み（70.4%）である。ゆいまーるプロジェクトへの参加数も前年度の1.2倍になった。保護者の理解も深まり、今年度は68.4%の保護者が「本校はボランティアの大切さを理解させ、活動機会を提供している」と評価している。</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動と学校行事の一層の活性化を図ることにより、生徒の目的意識を高めると共に、主体的に取り組む姿勢を育成する。</li> <li>・ボランティア活動を通じて地域連携を深め、活動に積極的に参加することにより、社会の一員としての自覚を深める。</li> </ul>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・生徒会執行部、各種委員会、部顧問会議	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1)学校行事の企画内容の見直しと生徒会における役割の明確化。 (2)生徒が主体的に取り組む部活動運営。 (3)ボランティア活動に対する意識の向上とボランティア活動への積極的な参加。	(1)学校行事に対する生徒と保護者、及び教員及び地域、学校関係者による満足度。 (2)部活動に対する生徒と保護者、及び教員及び地域・学校関係者による満足度。 (3)ボランティア活動に対する生徒と保護者、及び教員及び地域、学校関係者による満足度。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・北翔祭など学校行事で極力生徒の意見を反映させる企画とする。</li> <li>・部活動の全員参加を廃止。</li> <li>・従来の活動以外に新しいボランティア活動を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①生徒が興味を持ち、積極的に取り組むことができたか。</li> <li>②部活動に対する取り組みが積極的になったか。</li> <li>③生徒が積極的に参加・協力できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Ⓐ B C D</li> <li>A Ⓑ C D</li> <li>Ⓐ B C D</li> </ul>
11 成果課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の方々のご協力のおかげで、校外ボランティア活動を増やすことができた。気軽に参加できる活動が生徒のニーズに合っていると考えられる。</li> <li>○学校祭のタイムテーブルと企画見直しを行った。生徒会が多くのアイデアを出し、事後アンケートの生徒評価も高かった。</li> <li>○委員会活動の内容を一部ではあるが精選した。</li> <li>▲体育行事はバリエーションが少ないという意見がある。</li> <li>▲今後の生徒数の減少が予想されるため、部活動や行事の在り方を検討する必要がある。</li> </ul>	総合評価 A Ⓑ C D
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会活動の機会を増やし、生徒の企画・運営能力を高める。</li> <li>・ボランティア活動と地域探究活動をリンクさせる方法を研究する。</li> </ul>	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年2月6日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年活動はボランティアではない。自主的参加が生涯ボランティアにつながる。</li> <li>・</li> </ul>
---

2 評価する領域・分野	◇保健厚生	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全や衛生面への配慮について概ね満足されている。引き続き、安全点検や安全指導を推進していきたい。</li> <li>地震や台風等の場合の対応について、生徒や保護者に対策マニュアルが知らされている項目において、保護者、生徒の肯定的評価の割合が昨年度より上昇した。特に、保護者の肯定的評価91.7%と非常に高い評価を得ている。これは非常変災時予行訓練などが定着してきていることが考えられる。</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇健康・安全で活力ある基本的習慣を確立させる。 ◇学習環境の美化・整備を通じて、環境への視点を育成する。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・学校保健安全委員会（アレルギー対策委員会）・防災委員会 ・保健委員会・環境委員会・美化委員会	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 健康診断後の事後指導	(1) 健康診断後の医療機関への受診率 [生徒の安全・衛生面に対するアンケートにおける保護者の肯定的回答率80%以上A 60%以上B 40%以上C 40%未満D]	
(2) 安全点検・校内美化活動の推進	(2) 安全点検の実施とゴミ処理量の減少 [学習環境面での施設・設備の充実についてのアンケートにおける保護者の肯定的回答率[80%以上A 60%以上B 40%以上C 40%未満D]	
(3) 命を守る訓練、津波防災の日 非常変災時における帰宅確認予行	(3) 防災避難訓練の充実[緊急災害時の対応についてのアンケートにおける保護者の肯定的回答率[80%以上A 60%以上B 40%以上C 40%未満D]	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>各種健康診断結果をもとに、事後指導を徹底した。</li> <li>定期的な安全点検の実施及び美化委員会を中心とした校内美化活動の充実。また、環境委員会による、ごみの減量化、リサイクルの推進。</li> <li>命を守る訓練・津波防災の日の実施。非常変災時における対応。</li> </ul>	①健康診断後の医療機関への受診率は視力90.0%、眼科100%、内科及び運動器100%、歯科72.3%、全体では86.7%で他校に比べ非常に高い。 ②安全や衛生面への配慮 68.0% ③地震や台風への対応 91.7%	(A) B C D A (B) C D (A) B C D
11 成果 課題	○入学前の歯科治療と視力検査についての案内を新入生の手引きに入れた。視力検査は中学時C、D判定の者、歯科検診は全員が受信対象。受診対象者を明確にして説明することにより、歯科においては約9割が受診した。入学前の指導は意識付けができるため、今後も継続していきたい。 ○地震や台風への対応の項目で保護者の肯定的評価が上昇した。さらに非常変災時における帰宅確認予行などの訓練の充実を図る。 ▲校内の清掃の項目について生徒の否定的評価を低くする。	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康診断未受診者の受診率を向上させるための指導を徹底する。保護者に直接説明する。</li> <li>非常変災時における帰宅確認予行などの訓練方法の工夫。</li> <li>清掃の時間の取り組みをしっかりと行うことから始めたい。</li> </ul>	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年2月6日

【意見・要望・評価等】 ・アンケート結果を見ると否定的な意見が20%を超えるものが問題点であると考えられるので検討すると良い。
--

2	評価する領域・分野	◇渉外広報		
3	現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者大学見学会：日程や訪問する大学などに関するいろいろな要望がある。</li> <li>・PTA研修会：入試や就職など生徒の実態にあった話をしてほしいという意見が多くあった。</li> <li>・PTA総会：多くの保護者に出席してもらえよう工夫をしてほしいとの声がある。</li> </ul>		
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇「PTAだより」「学校案内」の紙面の改善・充実をはかる。</li> <li>◇国際理解に関する教育を推進する。</li> <li>◇PTA各種行事の内容の充実を図るとともに、参加率を高める。</li> </ul>		
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	・企画運営委員会、PTA運営委員会、学年会		
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 「PTAだより」「学校案内」の内容の検討・充実を図る。</li> <li>(2) 「国際理解プログラム」をより充実したものにする。</li> <li>(3) ロックハンプトン高校を訪問するにあたり、研修内容の充実と生徒や保護者への配信を積極的に行う。</li> <li>(4) 各種行事の参加者を増やすために、保護者の意見を反映させ行事の充実を図る。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 「PTAだより」「学校案内」の紙面の充実</li> <li>(2) 「国際プログラム」の内容の検討と充実</li> <li>(3) 「PTA総会」「大学見学会」「研修会」の内容の充実と参加率の増加</li> </ul> <p>総会参加率 [25%以上A 20%以上B 15%以上C 15%未満D]  大学見学参加率 [10%以上A 8%以上B 4%以上C 4%未満D]</p>		
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「PTAだより」「学校案内」の内容検討、内容の充実、デザインの改善。</li> <li>・「国際理解プログラム」の内容をしっかりと検討して、充実したものにする。</li> <li>・PTA各種行事への保護者の参加率をできるだけ高めるため、保護者が関心をもっているような講演や内容を企画する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>①「PTA便り」「学校案内」は前年より紙面は充実したか。</li> <li>②国際理解プログラムは、生徒にとって充実したものであったか。</li> <li>③PTA各種行事への参加率が目標値に達したか。また内容的にも満足のいくものであったか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A (B) C D</li> <li>(A) B C D</li> <li>A (B) C D</li> </ul>	
11	成果・課題	○参加率は、総会（19%；前年15%）、大学見学会（8%；前年9%）であった。		総合評価
		○大学見学会では「大学を知る良い機会であった」「次年度も参加したい」という感想が多かったことは成果であると考える。		A (B) C D
		○国際理解プログラムに意欲的に取り組んでいる生徒が多くみられ、その感想も極めて肯定的なものが多かった。		
		○北翔祭でのダンゴ販売等では、保護者同士の交流が深まり好評であった。		
12	来年度に向けての改善方策案 PTA行事に関しては、参加する保護者からの意見を取り入れ、多くの保護者に参加していただけるものにしていきたい。また、行事の案内を工夫して保護者の参加を促したい。今後も、PTA行事に多くの保護者が積極的にかかわっていただけるようにしていきたい。			

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年2月6日

### 【意見・要望・評価等】

総合的な学習の時間を活用しての国際交流や、ロックハンプトン高校との交流には、関係者より高い評価をいただいている。今後さらに生徒が主体的に取り組める活動に昇華させていきたい。



2	評価する領域・分野	◇図書視聴覚	
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>「朝の10分間読書」の効果についてのアンケートにおいて、肯定的評価をした保護者が69.1%、生徒が79.0%であった。昨年度より保護者6ポイント、生徒2ポイント減少したが、高い評価を得ている。</li> <li>「図書館の利用しやすさ」については、肯定的評価をした生徒が71.7%であり、昨年度より5ポイント減少した。</li> </ul>	
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇教科・HRとの連携を図り、図書館利用を促す。 ◇図書館環境の整備・充実に努め、読書に対する興味関心を高める。 ◇芸術鑑賞会を充実したものにするために、協議・検討を行う。	
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書視聴覚委員会（年3回）</li> <li>生徒会図書委員会</li> </ul>	
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
	(1) 図書館利用促進のための広報活動。 (2) 図書館における授業・LHR活動の準備。 (3) 朝の10分間読書の推進。 (4) 芸術鑑賞会についての広報活動。	(1) 図書の貸出冊数や来館者数を昨年度と比較。 (2) 授業・LHRでの図書館利用回数を昨年度と比較。 (3) 生徒へのアンケート。 (4) 生徒へのアンケート。	
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書委員会で作成した図書館だよりを掲示。校内読書感想文・小論文コンクールの実施。文化祭への参加。そのとき話題になっている本の展示。</li> <li>調べ学習における書籍の準備・収集。</li> <li>年間を通して「朝の10分間読書」を正副担任の指導のもと実施。</li> <li>芸術鑑賞会（11月）の実施。</li> </ul>	①図書貸出冊数と生徒の利用状況。 ②授業における図書館利用回数。 ③アンケート結果。 ④アンケート結果と当日の様子。	(A) B C D A (B) C D A (B) C D (A) B C D
11	○図書館では、月替わりで季節や行事に関する図書の展示を行ってきた。ディスプレイを手に取りやすいように工夫した。生徒の目線で話題になった本、映画化された本などタイムリーな企画になるよう年間を通して提供した。図書館だよりでは、視覚的に興味をもたせることができるよう廊下に掲示した。 ○計画的な授業での調べ学習において書籍を準備し充実させることができた。 ▲朝の10分間読書のアンケートから、読書の効果に肯定的な評価をしている一方で、実行に移せない生徒が増加しつつある。		総合評価 A (B) C D
12	来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が図書館活動に興味・関心をもつような企画ができるよう、情報を発信していきたい。今年度は文化祭において、委員会生徒主導の豆本ストラップ作りが好評だったので、今後も図書館に親しみをもつ行事を企画したい。</li> <li>朝の10分間読書で活用する学級文庫の本をさらに充実させ、今まで知らなかった本やその世界に少しでも興味をもつことができるように働きかけたい。</li> </ul>		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年2月6日

<b>【意見・要望・評価等】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>活動をどのようにPRしていくかを研究するとよい。</li> <li>自分たちの活動を自分たちの力で情報発信をさせると良い。</li> </ul>
--

2 評価する領域・分野	◇研究推進		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・アンケートの項目には該当なし。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) フィールド選択・科目選択の指導 (2) 地域課題探究型学習の企画・運営 (3) 本校の魅力の発信		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・教育課程委員会 ・LHR・総合的な学習委員会		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) フィールド選択や科目選択の指導の確立 (2) 地域課題探究型学習の指導計画作成 (3) 学校説明会における本校の魅力の発信	(1) 科目選択の手引き (2) 授業の指導案作成 (3) 中学生の進路希望状況		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
・1年次生のフィールド選択・科目選択指導を全職員とともにを行い、科目登録を行った。 ・ベース時間割の改善を行い、各教科の先生に受け持ちのシミュレーションをもらった。 ・中学生および保護者、中学校の先生対象に、単位制の説明を行った。	① 本校の教育目標に沿ったものか。 ② わかりやすいものであるか。 ③ 本校を希望する生徒が増えているか。	<input checked="" type="radio"/> A   B   C   D <input type="radio"/> A <input checked="" type="radio"/> B   C   D <input checked="" type="radio"/> A   B   C   D	
11 成果 ・課題中	○ 1年次生に対して、全職員の協力体制のもと、フィールド選択・科目選択指導を丁寧に行い、本登録まで行うことができた。 ○ 総合的な探究の時間における「探究活動」に関して、手探りではあるが、途中まで進めることができた。 ○ 自己管理のための「マイ手帳」を上手に活用する生徒が現れ、外部の大会で受賞することができた。 ○ 中学3年生対象の進路希望調査（1月）によると、本校を希望する生徒は、学年制最後の一昨年と比べ、11%増であり、広報活動が一定の成果を上げていると考えられる。 ▲ 科目選択の指導方法は、今年度の経験を生かして改善していきたい。また、3年次まで単位制がそろそろ2年後のシミュレーションを進めていきたい。 ▲ 探究活動の今後の展開を具体化していき、地域の方の協力を得ながら進めていきたい。		総合評価 <input checked="" type="radio"/> A   B   C   D
12 来年度に向けての改善方策案	・科目選択の指導法や「探究活動」の支援のしかたについては、先生方からの意見を集約し、さらに改善していく。 ・「探究活動」については、地域との連携を深め、推進していく必要がある。 ・2年後の時間割のシミュレーションは、2期生の仮登録のデータがそろった段階で始めたい。		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年2月6日

【意見・要望・評価等】  
「探究活動」が生徒主体で動き出していることがわかった。この取り組みを保護者や外部に伝わるよう、PRしていく方法を考えるとよいのではないかと。PRのしかたによっては、生徒のモチベーションが上がると思う。マスメディアを上手に利用して学校の活動を紹介したり、生徒自身が自分たちの活動をSNSなどで情報発信する手もある。